

賢くリッチに生きる女性の情報紙



みゆ〜ず

月刊みゆ〜ず・暮らしの情報のバックナンバーはホームページでご覧になれます。

明るい インドア人間

～エミの日記～

働く男性飛び入り紹介編その8

「若楠園、第二若楠園
施設長・木下 秀幸氏」



社会福祉法人 楠会
身体障害者通所授産施設 若楠園
知的障害者通所授産施設 第二若楠園

八女市豊福540-1
TEL(0943)24-1294

*ご相談はお気軽にお電話ください。

丸っこい優しいスマイルと厚みのある体型で、温か〜いティディベアを彷彿させる木下氏。「みなさんが『ここに来るのが楽しい』と、休まず元気に来て下さる姿を見るのがうれしい。中には、少々熱があっても、来たいと言って来られる方もいますよ。」

若楠園の歴史は古く、通所授産施設としては、当時県内初(日本で5番目)にできたという話です。若楠園、第二若楠園ともに、いろいろな企業から下請け等の内職作業を中心に請け負っています。通所者の一人一人が、こういった作業に興味があり、どういう作業をやっていたかかを判断して、各自に作業活動をお願いしています。

「今、福祉の環境は、障害者の生活、運営面など大変厳しくなっています。障害を持っていても『この国に生まれてよかった』と言える日本であってほしい。そのためにも、私たちは声を上げて、本人、家族、施設ともにめげずにやっていきたい。」東京に自ら出向き、厚生労働省に対して、障害者自立支援法の撤廃を求めるデモにも参加しました。数年前まで、社会保障から支払われていた施設利用料を、現在は、通所者が収入に応じて負担しなければなりません。まさに、お金を払って働く、という構造なのです。平成21年4月の制度見直しを、期待を込めて見ている、と木下氏は言います。

趣味は、ボウリング、ゴルフ、キャンプなど多彩です。ちなみに、ゴルフのスコアは“血压ぐらい(笑)”。また、CAPP活動—アニマルアシストセラピー(動物介在療法)に大きな関心を持っています。昔からの犬好きで、動物と触れ合う場、また動物の持つ力を通じてのリハビリの場を、若楠園、第二若楠園、さらにこの地区で創っていきたくと思っています。夢は、英語を勉強して、米ニューヨークにある「グリーンチムニーズ(動物と一緒に、子供とかかわる活動をしている)」で研修を受けること。(大坪 エミ)

おしゃれノート

自分の見識を広げる効果的な方法は、3つあると聞いたことがあります。それは、人に会うこと、本を読むこと、そして旅に出ることだそうです。この中で昨年は、これまでの人生で一番多くの本を読んだ一年となりました。中でも印象に残った本に、「夢をかなえるゾウ」(水野敬也、飛鳥新社)があります。書店で平積みされベストセラーとなり、今シーズンドラマ化もされているので、ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、ストーリーは、変わりたいと言いがらまったく変わることのできない、ごく普通の会社員の「僕」の前に、「ガネーシャ」という象の姿をした、関西弁を駆使するうさんくさい神様がある日突然現れ、毎日ガネーシャに与えられる課題を一つずつ実行しながら、少しずつ成長していくというものです。ガネーシャの話には、イチローやロックフェラー、松下幸之助やエジソンなど、自分のかつての教え子であったという数々の偉人たちの意味深い逸話もおもしろおかしく織り込まれていてわかりやすいですし、神様なのにタバコもやめられず、ダイエットもできずにあんみつをむさぼる、どこか人間味のあるいいかげんなガネーシャと、それにつきあわされる僕とのやりとりは何度読んでも笑えます。課題は、「コンビニでお釣りを募金する」、「トイレ掃除をする」、「運が良いと口に出して言う」、「一日何かをやめてみる」、「お参りに行く」、「誰か一人のいいところを見つけてホメる」、「毎日、感謝する」など、少しがんばればできそうなこと。本の中でガネーシャが言っていますが、ここで課題として出されることは、いろんな自己啓発や成功法則の本にもよく紹介されており、みんないいことだと十分わかっているはずなのに、現実にはなかなかできていない。これを実際に一日一つずつでもできる時だけでも実行して、できればそれを続けていくことが、「変わる」とか「成長する」にはおそらくとても大切なことなのでしょう。僕がガネーシャから学んで気に入っていることは、「人は楽しいことしかできない」ということ、「人を愛する」ということ、そして「成長するとは、楽しみながらやるもの」だということ。読みものとしても十分楽しめますし、少し気をつけて生活するだけで何かが変わりそうな気がして、読み終わった後に前向きな気持ちになれる、新年一押しの一冊です。(Pico)



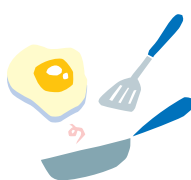
グリーン・コトの 子育て日記

台所の向こうに アジアの国々を見た

オリブオイル、コーヒード、ネグロスバナナ、エコシリンプ(エビ)、マスコバド糖の違いにこだわって少しでも安いものを選びたい。主婦なら誰もが心当たりのある行為だ。ところがある日、生協の集会に生産者がやってきた。パキスタン、東ティモール、フィリピン……海を渡って、遠い国からはるばるやってきたのだ。彼らはどうやって、どんな思いで作物を育てているのかを私達に説明してくれた。

うちの子どもと同じぐらい12歳ぐらいかな。ゴミ山でお金になりそうなのを拾うのが彼の仕事。下水設備、道路、病院、学校もないパキスタンの地域で子ども達は児童労働、女中奉公が当たり前なのだ。そこへ、生協が私達から集めた古着を送り続け、その資金で少しずつ子ども達は教育を受ける事ができつつあるという。

どれもこれも女性差別、南北差別などを背景に貧困の中必死に生きる生産者の姿だった。うちの子ども達は当たり前のように学校に行き、食べきれなかったら給食を残し、暖かい家でテレビでも見ながら気楽に生活している。そして私はいえ、何円高いと言いつつながらそんなアジアの人々が育てた作物を拒んでせかせかと夕食を作っているのだ。何てことだろう！6畳の団地の小さな台所の向こうに急にアジアの国々が広がった。私達が作物を注文することで彼らの生活は豊かになり、彼らが届けてくれることで私達は丹精込めた作物の本物の味を得ることが出来る。「同じアジア人として今こそ一体となって支えあおう」そんな言葉で締めくくられた思いもよらない世界規模の生協の報告集に、狭い台所で値段ばかりを気にしていた今までの私がすっかり小さい人間に見えたのだった。(志穂)



障害児教育について

今、筑後市内の公立小学校では「学習障害児等特別支援臨時職員」が11校中5校に7名配置されています。しかし、「学習障害児等特別支援臨時職員」は市役所の臨時職員と同じく教育委員会の臨時職員です。臨時職員の身分保障は校舎内のみです。特別支援臨時職員の主な仕事は「発達障害児に付き添い本人及び周りの児童に対して安全確保を行う事」です。校内のみの支援委員で校外活動には参加できません。学校の行事である校外マラソン、遠足、社会科見学、修学旅行等には引率できません。これらの行事に参加するには必ず保護者の同伴が必要です。子どもが社会性の体力を付けるのに必要な教育であり、ましてや義務教育で児童は教育の保障をされるべきだと思います。国は子育てに力を入れると掛け声ばかりで本当に予算を付けて育てる気があるのかと思います。(北)

障害福祉なんでも相談室「ちくたくネット」
☎ 0942-52-6699
☎・FAX 0942-52-6764
✉ chikutaku-net@tune.ocn.ne.jp

全労済エピソード募集「思いやりのリレー」優秀作紹介

心の調味料

おばあちゃんの作る、おにぎり！今でも一番だと思っています。おなかをすかせて帰る小学生の私に出してくれた、にぎりたての、心の込もったおにぎり。たまに口にした、スナック菓子の味は、覚えていないんですよ…。大人になっても本当のおいしさや「味」は忘れません。
‘心の調味料’って本当にすごい。おばあちゃん、ありがとう、ごちそうさま。これからも、心の調味料がたっぷりの食事を、大切にしていきたいな。

石川県 30歳 女性